

跳跳蛙
日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 4② 杜子春^{と し しゅん}



NPO法人 日本語多读研究会 主编
(日) 芥川 龙之介 原著
栗野 真纪子 缩写
祖田 雅弘 插图



跳跳蛙
日语读库



にほんご よむよむ文庫

Vol.1 4② 杜子春

NPO法人 日本語多読研究会 主编
(日) 芥川 龙之介 原著
栗野 真纪子 缩写
祖田 雅弘 插图

外语教学与研究出版社
北京



京权图字：01 - 2008 - 1934

© Originally Published by ASK Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

跳跳蛙日语读库. Vol.1. 4. ② / 日本 NPO 法人日本语多读研究会主编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2008.5
ISBN 978 - 7 - 5600 - 7523 - 5

I. 跳… II. N… III. 日语—自学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2008) 第 064620 号

出版人：于春迟

责任编辑：刘宜欣

装帧设计：王 军

出版发行：外语教学与研究出版社

社 址：北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址：<http://www.fltrp.com>

印 刷：北京国邦印刷有限责任公司

开 本：880×1230 1/32

印 张：1.375

版 次：2008 年 7 月第 1 版 2008 年 7 月第 1 次印刷

书 号：ISBN 978 - 7 - 5600 - 7523 - 5

定 价：34.90 元 (全四册)

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话：(010)88817519

物料号：175230001



日本語を勉強しているみなさんへ

「いほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

わかるものをたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「いほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

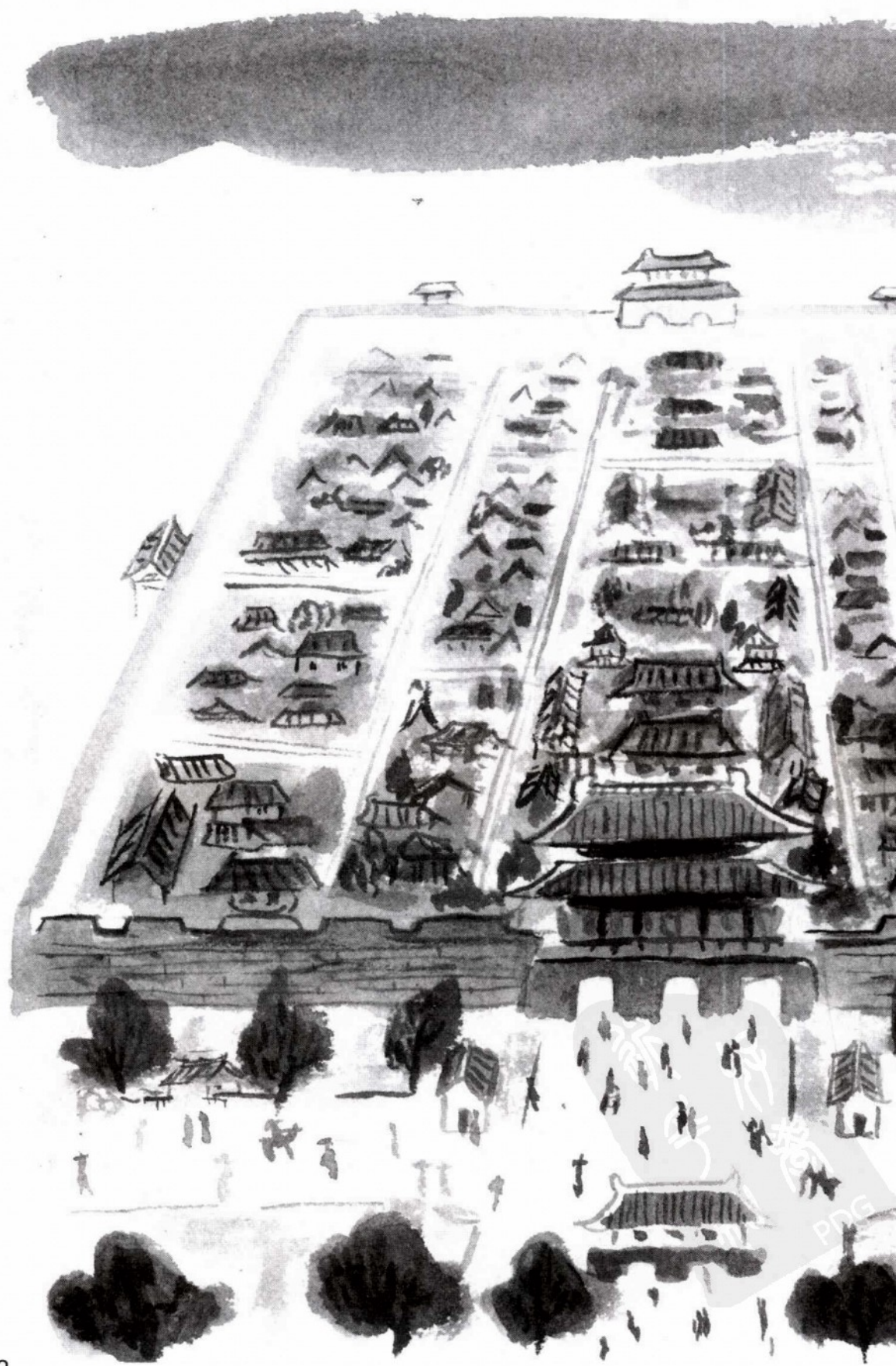


これは、昔々、今から千五百年ぐらい前の中国（唐）の町、洛陽のお話です。

昔の中国の町は、周りを壁で囲まれていました。そして、東、西、南、北にそれぞれ町へ入る門がありました。他の町や外国から来た人たちはみんな、この門を通過して町の中に入っていくのです。

洛陽は、そのころ、中国で一番大きな町でしたから、毎日たくさんの人がこの門から出入りしたりしていました。





ある春の日の夕方です。洛陽の西の門の下に、
一人の若い男が空を見上げながら立っています。

男は杜子春という名前でした。金持ちの家の息子でしたが、両親が死んだ後、お金を全部使ってしまったので、今は、住む家も食べる物もありません。

道は人や車でいっぱいでした。夕日の光の中をきれいな帽子をかぶった老人や、きれいな服を着た外国の女の人や、荷物をたくさん載せた白い馬などが通りすぎていきます。それは、まるで絵のようでした。



しかし、杜子春は、門の前に立って、ぼんやり空ばかり見ていました。空には細い月が、もう薄く白く見えていました。

——日が沈んで、暗くなってきた。おなかもすいたし、泊めてくれるところもないし……。どうしたらいいんだろう……。もう生きているより、川へ飛び込んで死んでしまったほうがいいかもしれない——

杜子春は、さっきから心の中でこんなことを思っていました。



すると、どこからやって来たのでしょうか。

一人の老人が杜子春の前で足を止めました。

老人は杜子春の顔をじっと見て、

「おまえは何を考えているのだ？」

と言いました。

「私ですか。私は今夜、寝る所もないので、

どうしようかと考えているのです」

杜子春は老人に急に尋ねられたので、びっ

くりして、思っていたことをそのまま言っ

てしまいました。老人は、

「そうか。それはかわいそうだな」

と言いました。杜子春は恥ずかしくなって、

下を向いてしまいました。



老人は、しばらく何か考えているようでした。そして、言いました。

「いいことを教えてやろう。今、この夕日の光の中に立ってみなさい。おまえの影が地面に映るから、その影の頭のところを、夜、掘ってみなさい。きっと車にいっぱい金の出てくるから」

「本当ですか」

下を向いていた杜子春は、驚いて顔を上げました。しかし、老人はどこへ行ったのか、もうそこにはいませんでした。

辺りは暗く、空の月は、前よりも白くはっきり見えました。

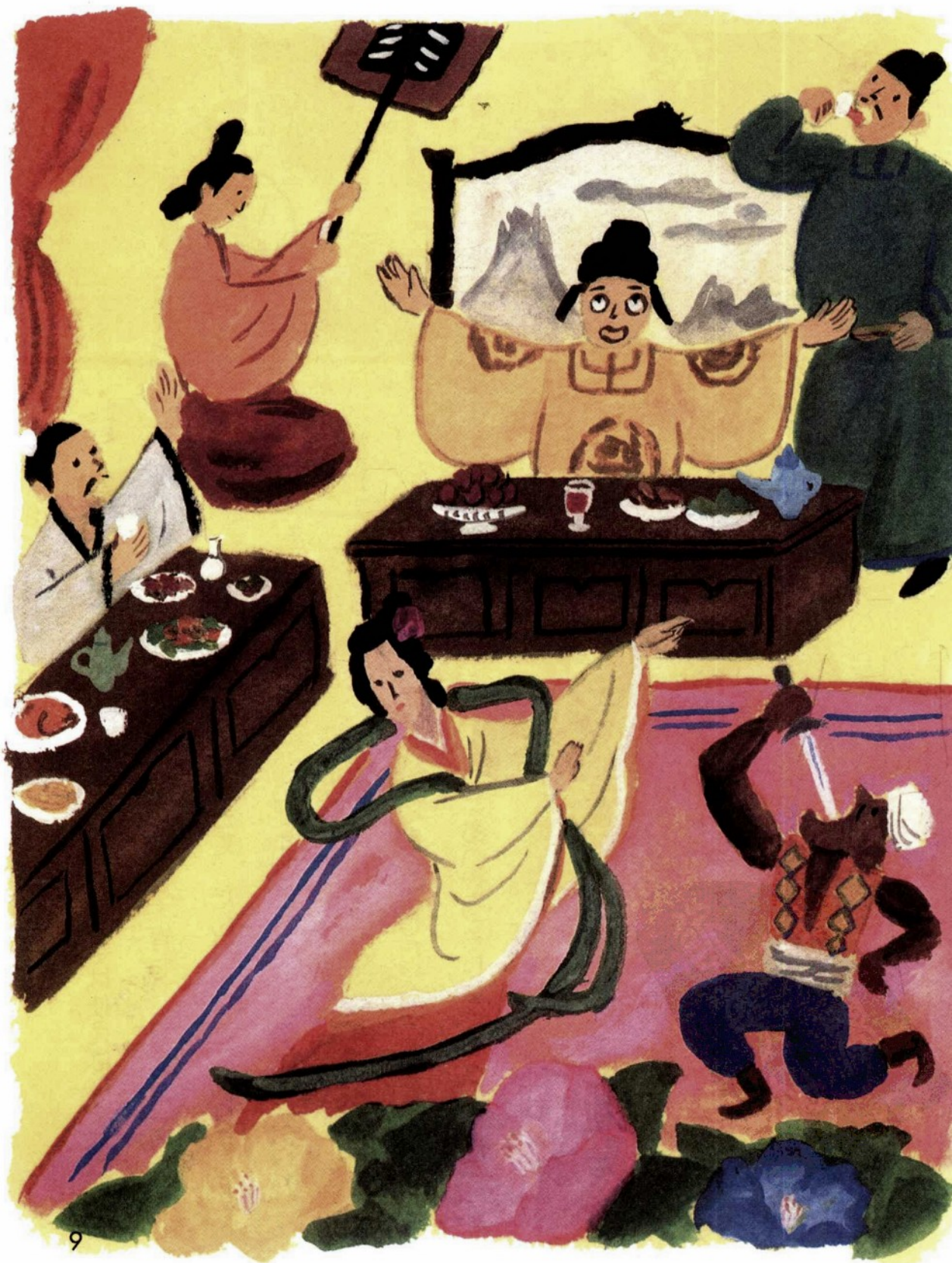


杜子春は、一晩で洛陽で一番の大金持ちになりました。あの老人の言葉通り、自分の影の頭のところを、夜、掘ってみたら、大きな車にいっぱいのお金がでてきたのです。

大金持ちになった杜子春は、すぐに立派な家を買いました。そして、世界中の珍しいもの、有名なものを買いました。高い酒や食べ物、日に四回色が変わる花、外国の美しい鳥、いす、車、服……。

すると、これを聞いて、今までは道で会ってもあいさつもしなかった人たちが、毎日遊びに来るようにになりました。その数は毎日増え、とうとう、町で杜子春の家に遊びに来ない人は、一人もいなくなりました。

杜子春は、この客たちと毎日酒を飲みました。杜子春が、金の茶碗で西洋の珍しい酒を飲んでみると、目の前で、インドの魔法使いが魔法を見せたり、髪にきれいな花を飾った女たちが、その周りで、踊ったり歌ったりしました。





しかし、お金かねは使つかえばなくなり
ます。杜子春とししゅんも、一年いちねん、二年にねんと
過ぎて、だんだん貧乏びんぼうになりました
た。すると、昨日きのうまで毎日まいにち来てい
た友ともだちも、もうだれも遊あそびに來
なくなりました。門もんの前まえを通とおつて
も、あいさつもしなくなりました。
とうとう三年さんねん目の春はる、お金かねは
全部ぜんぶなくなりました。家いえもなくな
りました。杜子春とししゅんを泊とめてくれ
る人ひとはだれもいません。一杯いっぱいの水みず
をくれる人ひともいなくなりました。

そこで、杜子春は、ある日の夕方、もう一度あの洛陽の西の門の下へ行って、ぼんやり空を見上げながら立っていました。すると、やはり前のように、老人がどこから出てきて、

「おまえは何を考えているのだ？」

と言いました。

杜子春は老人の顔を見ると、恥ずかしそうに下を向いて、しばらくは返事をしませんでした。

しかし、老人はその日も親切そうに同じことを聞くので、杜子春も前と同じように、

「私は今夜、寝る所もないので、どうしようかと考えているのです」

と、返事をしました。

「そうか。それはかわいそうだな。では、いいことを教えてやろう。今、この夕日の中に立って

みなさい。おまえの影が地面に映るから、その影の胸のところを、夜、掘ってみなさい。きっと、

車にいっぱいのお金が出てくるから」

老人はこう言うと、今度もまた、通りを歩きたくさんの人々の中に消えてしまいました。



杜子春は、その次の日からすぐに、町で一番の金持ちになりました。そして、またたくさんお金を使い始めました。珍しい花、美しい鳥、インドの魔法使い……。全部前と同じです。ですから、車にいっぱいあったたくさんのお金も、三年過ぎると、全部なくなってしまうました。



「おまえは何を考えているのだ？」

老人は杜子春の前へ来て、同じことを聞きました。これで三回目です。もちろん杜子春は、そのときも洛陽の西の門の下で、ぼんやり空を見上げながら立っていました。

「私ですか。私は今夜、寝る所もないので、どうしようかと思っっているのです」

「そうが。それはかわいそうだな。では、いいことを教えてやろう。今、この夕日の中に立ってみなさい。お前の影が地面に映るから、その影のおなかのところに、夜、掘ってみなさい。きつと車いすいぼくの……」

老人がごごまで言つと、杜子春は急に手を上げて、その言葉を止めました。

「いや、お金はもういらなのです」

「金はもういらな？ では、とうとう金をたくさん使うことがつまらなくなつたんだな」
老人は杜子春の顔をじっと見ました。